

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號二第 卷七第

行發日一月八年七正大

論說

我戰時利得稅ヲ論ズ(二)……………法學博士 小川郷太郎

遊民考(二)……………法學博士 瀧本誠一

相續稅批評ノ重點(三)卷……………法學博士 神戸正雄

さんちかりずむ概論(三)……………法學士 河田嗣郎

植民地統治ノ形式ニ就テ(三)……………法學士 山本美越乃

黃宗義ノ政治經濟思想(二)卷……………法學士 小島祐馬

露國ニ於ケル新まゝるくす主義(二)……………法學士 米用庄太郎

時事問題

支那ノ金本位問題ニ就テ(二)……………法學博士 戸田海市

救濟事業ノ調査ニ就テ……………法學博士 神戸正雄

救濟調査會ニ就テ……………法學士 櫛田民藏

雜錄

飯島學士譯經濟學原論ヲ讀ム……………文學士 高田保馬

戰費調達問題(三)卷……………法學士 小島昌太郎

赤穂ノ鹽田(二)卷……………法學士 本庄榮治郎

通貨膨脹ト物價騰貴……………法學博士 神戸正雄

露國ニ於ケル資本主義ノ發達ノ

特徴ト最近ノ大革命 (一)

米田庄太郎

第一節 社會進化と資本主義

(七) 新まゝるくす主義 (2)

ツীগン、ばらのがすきー (Michael Tugan-Baranovsky.)

サキニ述ベシ如ク千八百九十年代ニ入りテ、露國ニ於テまゝるくす主義ノ勃興スルヤ、政府ハ其ノ社會民主主義ノ方面ヲ極力禁壓セントスルト同時ニ、當時ノ經濟政策ノ上カラ見テ便宜上其ノ經濟學ノ方面ノ研究ハ寛恕シタノデアアル。或ハ寧ロ暗ニ之ヲ奨勵シタト云フテモヨイ。サレバ當時ノ若キ經濟學者ハ熱心ニまゝるくすノ經濟學ヲ研究シ始メタ。此クテ「官許まゝるくす主義者」ト稱セラルル一群ノ學者ガ起ツタノデアアル。而シテ當時諸大學ノ經濟學ノ若キ教授ニシテまゝるくすノ經濟學ニ多少感染シナカツタモノハナイト云ハルル程デアツタガ、其際彼等ノ間ニ於テ赫然トシテ頭角ヲ見ハシタノハツীগン、ばらのがすきーデアツタ。彼ハ先ヅ「露國ノ工場ノ過古ト現在」ヲ公ニシテ、露國ノ工業ニ於ケル資本主義ノ發達ノ狀態ヲ究明シ、大ニ學界ノ注意ヲ引

イタガ、其ノ後幾多ノ有益ナル經濟學上ノ著作論文ヲ公ニシテ居ル。殊ニ經濟的恐慌ニ關スル彼ノ著作ハ佛語ニモ翻譯サレテ有名デアアル。併シ余ハ茲ニハ主トシテ彼ガなまるくす主義ノ社會學說及ビ社會主義說ヲ批判的ニ考究シテ立テタ彼ノ社會學上及ビ社會主義上ノ見解ヲ論述スルニ止メテ置ク。而シテ此ノ方面ニ於ケル彼ノ主要ナル著作ハ彼ガ千九百五年ニ公ニセル「なまるくす說ノ理論的基礎」及ビ其後公ニセル「近世社會主義」デアアルガ、前者ハ其ノ出版ノ年ニ獨逸語ニ翻譯セラレ、後者ハ千九百十年ニ英語ニ翻譯サレテ居ル。茲ニハ主トシテ右ノ兩書ニヨリテ彼ノ新なまるくす主義ノ根本思想ヲ簡單ニ說述シテ見ヤウト思フ。

今つーがん、ばらのぐすきーハ自カラ唯物主義的客觀主義者デアアルト云フテ居ル。併シ實際ニ於テ彼ノ到着セル論結、彼ノ積極的ニ立言シテ居ル思想ハ、露國ノ主觀主義派ノ人々ノ夫レト殆ンド同ジ傾向ヲ有スルモノニシテ、吾人ハ彼ヲ以テ最早唯物主義的客觀主義者ノ一人ト認メルコトハ出來ナイ。彼モ一般ノ新なまるくす主義者ト同ジク大ニ主觀主義ノ見解ヲ攝取シテ居ル、否ナ主觀主義者ノ一人デアアルト云フテモヨイデアアル。而シテ彼ノ新なまるくす主義的思想ハ夫レ自身獨立ニ組織的ニ論述サレテ居ルノデハナクシテ、なまるくす說ノ根本思想ノ批判的考察ニヨリテ展開サレテ居ルノデアアル。ソレデ先ヅ彼ハなまるくす說ノ根本思想ヲ如何ナルモノト認メ、又之ヲ如何ニ解釋シタカヲ述ベテ置カネバナラス。

却說つーがん、ばらのぐすきーノ見ル處ニヨレバ、なまるくすノ唯物史觀說ハ二ケノ基本學說ヨリ成立シテ居ル。其ノ一ハ生産力說 Die Lehre von den Produktionskräften ニシテ、即チ社會進

- (1) Michael Tugan-Baranovsky, Theoretische Grundlagen des Marxismus, 1905.
 (2) M. Tugan-Baranovsky, Modern Socialism, in its Historical Development, 1910.

化ハ其ノ無限ニ複雑ナル全體ニ於テ、結局生産力ニ基ツイテ行ハルルモノト見ル説、其ノ二ハ階級闘争説 Die Lehre vom Klassenkampf ニシテ、即チ社會進化ハ階級闘争ニヨリテ行ハルルモノト見ル説デアル。而シテ生産力ノ概念ニ就テハ、まゐるくす主義者ガ種々見解ヲ異ニシテ居ルノミナラズ、まゐるくす自身モ場合ニヨリテ解釋ヲ異ニシテ居ルガ、併シ唯物史觀ノ主意ヲ徹底サセテ考察スルニ於テハ、ついでん、ばらのぢすきーハ、之ヲ以テ經濟的勞働ノ物質的條件ノ總體ヲ意味スルモノト、解セネバナラスト考ヘテ居ル。サレバ此ノ如キ意味ノ生産力ガ社會生活ヲ根本的ニ支配スルモノト見ル生産力説ハ、ツマリ歴史の進化ノ客觀的無意識の方面ヲ説明スルモノデアル。併シ夫レダケデハ社會進化ノ説明ハ悉クサレナイ。更ニ其ノ主觀的意識の方面ヲ説明スル學說ヲ立テテ之ヲ補充セテバナラス。ソコダまゐるくすハ階級闘争説ヲ説イタノデアル。要スルニ物質的ナル經濟的條件ノ發達ハ、歴史ノ決定的勢力デアルガ、併シ夫レハ無意識的ニ働ク勢力デアル。然ルニ歴史ハ意識的要素ヲ具ヘテ居ルコトハ疑ハレナイ。然ラバ其ノ意識的要素ノ根本的ナルモノハ何ンデアルカト云フニ、是レ即チ生産力ノ無意識的發達ニヨリテ生起スル新シキ經濟様式ト古キ經濟様式トノ衝突ガ、人間ノ意識ニ於テ反照サレル異ナレル社會團體ノ利益心ノ衝突デアル。ツマリ階級的利益心ノ衝突デアル。而シテ階級闘争トハ即チ此ノ階級的利益心ノ衝突ヲ意味スルモノデアル。サレバ階級闘争説ナルモノハ、社會進化ヲ根本的ニ決定スル生産力ノ無意識的ナ働キガ人間ノ意識ニ於テ反照サレル最トモ根本的ナル意識的形態トシテ階級闘争ヲ觀念シ、而シテ生産力説ヲ補フテ歴史ニ於ケル意識的要素ノ作用ヲ根本的ニ説明セントスルモノデ

アル。

つーが、ばらのすきーハ以上述べシガ如ク、まゐるくすノ唯物史觀說ハ根本的ニ生産力說ト階級鬭爭說ヨリ成立スルモノト考へ、而シテ之ヲ批判的ニ考察シテ自說ヲ述ベテ居ルノデアアルガ、彼ハ先ツ其ノ心理的出發點或ハ基礎ヨリ論評シ始メテ居ル。

夫レまゐるくすハ大ニへーげる哲學ノ影響ヲ受ケテ彼自身ノ思想ヲ發達サセタコトハ、茲ニ事新シク云フマデモナイガ、併シ彼ノ思想ノ心理學的基礎ハへーげるノ說トハ大ニ異ナツテ居ル。

へーげるノ心理學ハ前代ヨリ一般ニ行ハレテ居ツタ主知主義ノモノデアアル。然ルニまゐるくすノ心理學的思想ハふいひてヤしよーべんはうあーノ手ニヨリテ大ニ發展シ來レル主意主義ノモノデアアル。而シテ此ノ點ニ於テまゐるくすハへーげるヨリモ一步進ンデ居ルト云ハネバナラヌ。生キントスル意志ガ意識生活ノ發達ヲ指導スルモノニシテ、意識ガ生キントスル意志ヲ指導スルモノデナイ。有機體ヲシテ其ノ外界ヨリ受クル無數ノ刺激ノ中デ、特ニ如何ナルモノニ反應ス可キヤヲ決定セシムルモノハ生活ノ實際的^{プラクティツシク、インテレツシク}利益デアアル。意識ハ生物學の見地ヨリ見レバ只有有機體ノ運動ヲ規制スルダケノモノニシテ、之ヲ決定スルモノデナイ。而シテ意識其物ヲモ結局決定スルモノハ生キントスル意志デアアル。サレバまゐるくすハ大ニへーげるノ哲學ノ影響ヲ受ケナガラ、而モ彼ノ主知主義的^{インテレツシク}心理學ヲ排斥シテ、主意主義的^{インテレツシク}心理學ノ見解ヲ其ノ思惟ノ出發點トシタノハ大ナル卓見デアアル。然ルニまゐるくすハ主意主義的^{インテレツシク}心理學ノ見解ニ基ヅキテ人生ヲ根本的ニ決定スルモノハ利益^{インテレツシク}心デアルト見ルニ當テ、只經濟的利益^{インテレツシク}心ノミヲ重要視シタノハ、假令謬見^{インテレツシク}デハサ

イニシテモ確カニ偏見デアルト云ハネバナラヌ。但シまゝくすハ人類ノ慾望及ビ衝動ノ多種多様ナルヲ認メナカヅタノデハナイガ、併シ經濟的利益、即チ彼ノ解スル意味デハ直接ナル自己保存ノ努力ハ總テノ慾望及ビ衝動ノ中デ、歴史的ニ尤トモ強大ナル又決定的ナルモノト考ヘタノデアル。併シ是レハ現實ナル人生ノ事實ニ適合シナイ偏局ナル見解デアル。隨ノテ之ニヨリテアルガママノ現實人生ヲ正當ニ説明スルコトハ出來ナイ。吾人ハ先ヅ此ノ點ニ就テまゝくすノ思想ヲ批判的ニ考察シ、其ノ中ニ含メル真理ヲ十分ニ闡明スルト同時ニ、又其ノ缺陷ヲ補フテ以テ現實人生ヲ正當ニ理解スル方法ヲ求メネバナラヌ。而シテ夫レハツマリ人類ノ總テノ利益心或ハ慾望ヲ適當ニ分類シ、夫ヨリ各部類ノ相對的重要或ハ意義ヲ正當ニ評價スルコトデアル。此クテツীগン、ばらのゾすきーハ社會進化ノ原動力トシテ人類ノ慾望ヲ五部類ニ大別シテ、其ノ各々ノ相對的重要ヲ考究シテ居ル。而シテ其等五部類ノ慾望ト云フハ、即チ(1)自己保存并ニ感覺的快樂ヲ求ムル生理的慾望、(2)性慾、(3)同情的衝動、(4)利己利他的衝動 *Egoaltruistische Triebe* (5)無關心的衝動 *Interesselose Triebe* 等デアル。

夫レ自己保存及ビ感覺的快樂ノ慾望ハ個人ノ生活ノ心理的基礎ヲナシ、人類及ビ其他ノ動物全體ニ共通スルモノデアル。而シテ此ノ部類ノ慾望ノ満足ハ、まゝくすヤえんげるすが「直接生活ノ生産」ト稱シ、一般ニ經濟的行爲ト同一視スル其等ノ行爲ニヨリテ與ヘラレルモノデアルガ、今其等ノ行爲、即チ生活手段ノ生産ハ總テノ他ノ行爲ノ一ノ必然的豫件デアルコトハ論ズルマデモナイ。「人間ハ政治、學問、藝術、宗教等ヲ考ヘ或ハ行ナイ得ル前ニ、先ヅ食ヒ、飲ミ、家

ニ住居シ、衣服ヲ着ケネバナラス。此クテ一國民又ハ一時代ノ直接ナル物質的生活手段ノ生産隨フテ其ノ經濟的發達階段ハ其ノ國民又ハ時代ノ政治的制度、法律的、思想、藝術及ビ宗教サヘモ依テ以テ發達スル基礎或ハ地盤デアル。此ノ事ハ實ニ深奥ナル真理デアル。併シ直接生活ノ生産ト政治、藝術、宗教等トノ關係ノ問題ハ、夫レダケテ悉ク解決サレタトハ云ハレナイ。此ノ關係ハサホド單純ナモノデナイノデアル。即チ只必要ナル生活手段ノ生産ガ政治、宗教等ノ基礎デアルバカリデナク、之レト反對ニ政治、宗教等ガ又其ノ生産ノ基礎デモアルノデアル。此ノ事實ハ自然人民ノ生活ヲ研究シテ見テモ明ラカニ認メラレルノデ、彼等ノ宗教、道德、法律、藝術等ハ彼等ノ經濟的生活ヲ基礎トシテ發達シテ居ルト同時ニ、又其等ノ非經濟的動機ガ經濟的生活ノ發達ノ上ニ重大ナル影響ヲ及ボシテ居ルノデアル。但シ常ニ饑餓ノ危險ニ迫ラレテ居ル原始人民ニ於テハ、食物生産ノ條件ガ全然決定ナル社會的因素トナルコトガアル。併シ此ノ危險ガナクナルト食物ノ慾望トハ何等ノ關係ヲモ有シナイ種々ナル慾望ガ發生シ來リテ、直接生活ノ生産ノ上ニ重大ナル影響ヲ及ボスノデアル。

食物慾望ニ次デ注意ス可キ強大ナル慾望或ハ衝動ハ性慾デアル。此等二種ノ衝動ハ人類ノ動物的本性ニ深キ根柢ヲ有スルモノデアル。併シえんげるすが考ヘシ如ク性慾ハ食慾ヨリ獨立シテ人類ノ進化ヲ支配シ、之レト同等ナル力ヲ有スル一ノ社會的因素デアルト見ルハ謬見デアル。性慾ノ作用ニヨリテ生ミ出サル家族モ其ノ實際ニトル處ノ形態ハ結局經濟ニヨリテ決定サレテ居ルノデアル。

次ニ同情的衝動ハ人性ニ於テ總テノ他ノ衝動ヨリ區別サレル獨立ナル衝動デアロコトハ疑ハレナイ。而シテ二重ノ根源ヨリ發生スルモノデアアル。其ノ一ハ母ノ愛情ニシテ、其ノ二ハ社交ノ衝動デアアル。此等二種ノ本能或ハ衝動ハ人類社會ノ最トモ重要ナル心理的基礎ヲナスモノデアアル。人性ニ於テ他愛的感情ノ本來存在スルコトハ確カニ疑ハレナイ。問題ハ社會の歴史的因素トシテ此ノ種ノ感情ニ如何程ノ力ヲ認ム可キカデアアル。今社會進化ノ原動力トシテ他愛的感情ニ非常ニ強大ナル力ヲ認メル人々ハアルガ、併シ之レハ穩當デナイト思フ。嚴正ニ吟味シテ見ルト此ノ種ノ感情ハ歴史ノ進行上決シテサホド大ナル力ヲ有ツテ居ラナカツタコトヲ發見スル。同情的感情ハ只比較的ニ狭少ナル社會團體ニ於テ人類ノ行爲ノ根柢トシテ稍々大ナル意義ヲ有スルダケデアアル。是レ同情ノ性質上自カラ然ル可キデアアル。他人ノ悲シミ喜ビト同情スルト云フコトハ他人ノ意識生活ヲ自己ノ意識生活ニ於テ反照スル能力ノ發達ヲ前定スル。然ルニ此ノ能力ハ又他人ノ意識生活ヲ十分ニ理解スル能力ニ基ツイテ發達スルモノデアアル。而シテ之レハ只人々ガ其ノ精神の經驗ニ於テ共同的ナル多クノモノヲ共有スル場合ニ於テノミ可能デアアル。此クテ交通スル人々ノ圈ガ狭イホド彼等ノ間ニ同情ガ強マルノテアル。尙ホ階級感情ヤ國民感情ニナルト夫レハ只同情的他愛的感情ノミヨリ成立シテ居ルノデハナク、大ニ利己の感情ヲ混交シテ居ルノデ、而シテ夫等ノ感情ノ強大ナル所以ハ其ノ中ニ混交セル利己の感情ニ大ニ基因スルノデアアル。

次ニ利己他愛的感情ハ甚ダ強大ナル社會的因素デアアル。夫レハ文化人ノ行動ニ於テモ亦原始人ノ行動ニ於テモ甚ダ重要ナル原動力トナツテ居ルモノデアアル。此ノ感情ハ社會的勢力ヲ得ントス

ル努力トナツテ現ハレルガ、此ノ努力ハ自己保存并ニ感覺の快樂ヲ求ムル努力ト相并ンデ社會の行動ノ二ケノ最トモ重大ナル動機ヲナスモノデアル。社會の優勢ノ爲メノ競争ハ生存競争ト同様ノ強烈ヲ以テ行ハレテ居ル。是レ總テノ他ノ動物ノ進化史ヨリ人類ノ歴史ヲ區別スル決定の特徴ノ一デアル。總テノ重大ナル社會の運動ハ箇人及ビ國民ノ勢力意志即チ社會の勢力ヲ振ハントスル意志ト直接ナル關係ヲ有スルコトハ疑ハレナイ。モツトモ戰爭ヲ只此ノ動機ノミヨリ説明セントスルハ謬見デアル。而モ箇人并ニ全國民ノ名譽心ガ戰爭ヲ生起セシムル最トモ重大ナル一因素デアルコトハ否マレナイ。政治的世界史モ亦社會的世界史モ、若シ利己他愛的感情ガ人類生活ニ於テサホド大ナル役目ヲ演ジナイナラバ、有リシガ如キ又有ルガ如キモノトハ全ク性質ヲ異ニスルデアラウト思フ。

終リニ無關心の慾望モ亦社會進化ノ一因素トシテ注意ス可キモノデアル。夫レ諸般ノ實際的の利益心ハ人類ノ意識生活ヲ支配スルモノデアル。併シ只彼等ノミガ之ヲ支配スルノデハナイ。人類ニ於テハ生活ノ實際ニ直接關係シナイ慾望モ存在スル。而シテ夫レガ爲メニ吾人ハ其等ノ慾望ヲ無關心の慾望ト稱スルコトガ出來ル。先ヅ其ノ最トモ單純ナルモノハ遊戲本能デアル。遊戲ハ餘剩勢力ノ快感的放出ニシテ藝術ノ根源デアル。而シテ遊戲及ビ藝術ノ動機ハ社會進化ノ上ニ大ナル影響ヲ及ボスガ、而モ少クモ今日マデノ狀態ニ於テハ、社會生活ハ先ヅ第一ニ生存競争及ビ勢力競争ニシテ、遊戲及ビ藝術ノ動機ハ夫レニ於テ只次等の役目ヲ演ズルニ止マツテ居ル。無關心の慾望トシテ又智識慾ハ重要ナルモノデアル。此ノ慾望ハ始メハ無關心のモノデナク、實際的

目的ノ爲メニ働クモノデアアル、而シテ只實際的生活ヲ大ニ改造シ進歩サセタル後ニ、單ニ智識ノミヲ求メルト云フ嚴密ナル智識慾トナルノデアアル。此ノ如キ智識慾ノ強大ナル人々ハ藝術的動機ノ強大ナル人々ヨリハ其ノ數遙カニ少クナイ。而モ其等ノ人々ノ無關心的研究ノ結果ハ社會生活ノ上ニ大ナル影響ヲ及ボスノデアアル。無關心の慾望ノ最トモ高等ナルモノハ宗教的慾望デアアル。宗教ハ單ニ實際的目的ノ一手段タルニ止マルモノデナイ。宗教ヲ以テ夫レ自身目的ト觀念スル人々ハ世ニ少クナクナイ。而シテ宗教ハ常ニ歴史ノ最大原動力ノ一デアツタガ、今日ニ於テモ矢張りソツデアアル。

以上述べ來リシ處ニヨリテ知ラルル如ク、ツীগン、ばらのぐすきゝハマゝるくす説ヲ批判的ニ考察シテ經濟的利益心インテレッツノミヲ以テ社會進化ノ唯一ノ因素又ハ原動力ト見ル見解ノ穩當ナラザルヲ主張シ、而シテ其他ノ諸般ノ利益心ノ勢力ヲモ夫レ夫レ適當ノ度合ニ於テ承認セントスルノデアアル。要スルニ彼ハ經濟的一元説ヲ排斥シ、諸般ノ利益心ノ相對的勢力ヲ適當ニ認メテ、以テ社會生活ノ形成及ビ進化ノ全體ヲ正當ニ説明セントスルノデアアル。次ニ彼ハ更ニ經濟ト社會生活トノ關係ニ就テまゝるくす説ヲ批判的ニ吟味シ、且ツ自説ヲ述ベテ居ル。

却説人類ノ行動ノ心理的動機ノ多種多樣ナル中ヨリ、只自己保存ノ衝動ダケヲ抽キ出シ、茲ニ世界歴史ノ一切ノ問題ノ關鍵ヲ發見シタト觀念スルまゝるくすノ見解ハ、社會生活ノ現實ナル事實ト矛盾シテ居ルコトハ、上ニ述べシ處ニヨリテ明ラカニ認メラレルト思フガ、然ラバ唯物史觀説ハ吾人ヲ誤解ニ導ク一ノ偏局ナル思想體系トシテ直チニ放棄ス可キモノデアアルカ。ツীগン、

ばらの分すきーハ自カラ此ノ問題ヲ起シテ、又之レニ對シテ直チニ左ノ如ク答ヘテ居ル。余ハ寧ロ此ノ思想體系ハ改造シ得ラレルモノニシテ、而シテ之ヲ適當ニ改造スレバ、甚ダ有益ナル科學的理論トナルデアラウト信ズル。然ラバ彼ハ如何ナル改造ヲ施サントスルカ。

今唯物史觀說ノ最トモ基本的ナル觀念ハ經濟ノ觀念デアルガ、まゝるくすモえんげるすモ此ノ觀念ヲ決定セントスルニ當テ、一般ノ經濟學者ノ見解ニ從ガヒ、甚ダ漠然タル定義ヲ下スニ止マツテ居ル。即チ彼等ハ充足セラル可キ慾望ノ種類ニ於テ經濟ノ差別的特徵ヲ認め、而シテ有機體ノ必然的慾望ヲ充足セントスル行爲ヲ總テ經濟ノ特徵ト見ルト同時ニ、然ラザルモノハ總テ經濟デナイト見做シテ居ル。併シ少シク注意シテ考フレバカカル經濟觀念ノ甚ダ漠然タルモノニシテ、科學的思惟ノ基礎トナシ難キモノナルハ明ラカニ理解サレルノデアアル。サレバカカル經濟觀念ヨリ起ル困難ヲ除カントシテしゆたむらーノ經濟觀念ノ如キモノガ其後唱へ出サレタノデアアルガ、是レモ矢張り穩當デナイ。要スルニ正當ニ決定スレバ經濟トハツマリ物質的外界ニ向ケラレタル人間ノ行爲ニシテ、人間ノ慾望ノ充足ニ應ズル物質的條件ヲ作ルコトヲ目的トスルモノノ總體ニ外ナラヌ。而シテ二ケノ特徴ニヨリテ非經濟的行爲ヨリ區別セラル。其ノ一ハ經濟的行爲ハ常ニ或物ノ手段ニシテ夫レ自身目的デナイト云フコト、其ノ二ハ經濟ハ常ニ外界自然、即チ吾人ノ存在ノ物質的條件ニ向ケラレタルモノナルコトデアアル。總テノ場合ニ於テ經濟ノ目的ハ人間ノ慾望ノ充足ノ爲メニ出來ルダケ都合ヨキ物質的條件ヲ作ルコトデアアル。而シテ經濟ノ觀念ヲ此ノ如クニ決定スルニ於テハ先ヅ唯物史觀說ニ加ヘラレル多クノ非難ハ除去サレルノデアアル。殊ニ觀

念の動機ノ高等ナル社會の意義ヲ認メナイト云フ非難ハ自カラ消失スル。右ノ經濟觀念ニ基ヅイテ考フレバ、社會生活ヲ支配スル經濟ハ物質の生活ノ保持ニ必要ナルト同様ニ、吾人ノ觀念的の或ハ理想的目的ニモ亦役立ツモノナルコトハ明ラカニ理解サレルノデアル。而シテ經濟ガ社會的秩序ノ基礎或ハ根柢デアルト云フ思想ガ正當ニ説明シ得ラレルノデアル。

夫レ何レノ種類ノ慾望モ其ノ充足ノ爲メニハ一定ノ物質的手段ヲ要スルモノデアル。吾人ハ社會的行動ノ何レノ領分ニ就テ考フルモ、其ノ行動ノ第一歩ハ其ノ行動ノ特殊的目的ニ其ノ行動ノ物質的條件ヲ適應セシムルコト、即チ經濟ニ於テ成立スルヲ見ルノデアル。此ノ如キ意味ニテ經濟ハ社會生活ノ中心的位置ヲ占ムルモノニシテ、而シテ其ノ經濟的中心ヨリ總テノ方向ニ於テ諸般ノ社會的行動ノ線ガ放射サレルノデアル。然ルニ總テノ放射線ハ只中心點ニ於テノミ相互ニ接觸シ結合シ、而シテ其ノ中心點ハ總テノ放射線ノ共同的結合點デアルカラ、社會經濟ハ社會的行動ノ總テノ種類ノモノヲ結合シ、彼等ノ共同的結合ハ經濟ニヨリテ作ラレルノデアル。尙ホ總テ中心ニ於テ起ル事ハ又放射線ニ於テ反響セザル可カラザルモノデアルカラ、社會經濟ニ於テ起ル深大ナル變動ハ、社會生活ノ總テノ方向ニ於テ變動ヲ惹起セザルヲ得ナイノデアル。吾人ハ以上述ベシガ如キ意味ニテ正當ニ經濟ヲ以テ社會的秩序ノ基礎根柢ト認ムルコトガ出來ルノデアル。併シ茲ニ看過シテハナラヌ事實ガアル、夫レハ只社會進化ノ始メニ於テノミ社會生活ハ經濟ト全然結合シ、中心ト放射線トカ一致シテ居ルガ、社會進化ノ高マルニツレテ他ノ社會的行動ハ段々經濟ヨリ獨立シテ發達シ、放射線ガ段々中心點ヲ遠サカツテ行クコトデアアル。要スルニ社會生活

ノ全體ヲ成ス諸種ノ社會的行動ハ一ノ階梯ヲ作ルモノニシテ、其ノ最下ノ階段ハ全ク直接生活手段ノ生産ニヨリテ成ルガ、高等ナル階段ニ上ルニツレテ經濟的勞働ノ役目ハ其ノ階段ノ諸行動ノ全體ニ於テ常ニ益々減弱シテ行クノデアル。慾望ガ高等ニナレバナルホド其ノ充足ニ必要ナル行動ニ於テ經濟的勞働ノ演ズル役目ハ減少シテ行キ、高等ナル社會的行動ハ經濟ヨリ離レタル獨立ノ意義ヲ有スルニ至リ、之ヲ以テ到底經濟ノ受働的生產物或ハ其ノ單純ナル反射ト見做スコトハ出來難クナルモノデアアル。然ルニ歴史の進歩トハ正シク人間ノ精神化ヲ意味シ、人間生活ノ重心點ガ生活維持ノ下等ナル生理的慾望ヨリ高等ナル精神的慾望ニ移行行クコトヲ意味スルモノデアアルカラ、ソマリ經濟的因素ノ社會的重要ハ歴史ノ發達ニツレテ減少セネバナラスコトニナルノデアアル。

尙ホ經濟ト他ノ社會的行動トノ間ニハ重要ナル間接的ナ關係ガアル。夫レハ一國ノ人口ノ大多數ガ常ニ經濟的勞働ニ從事シテ居ルコトニアリテ、經濟ト他ノ社會的行動トノ間ニ起ル關係デアアル。而シテ此ノ關係ニヨリテ經濟ハ社會生活全體ノ上ニ重要ナル影響ヲ及ボシ、意識生活ノ總テノ領分ニ於テ一定ノ特色ヲ表現セシメルノデアアル。併シ社會ノ進化スルニ從フテ非經濟的行動ニ從事スル人口ノ割合ガ段々増加シ、而シテ夫レガ爲メニ此ノ方面ニ於テモ亦經濟ノ影響ハ漸次ニ減弱スルコトヲ看過シテハナラス。

終リニ唯物史觀說ヲ正當ニ解釋セントスルニ於テ注意ス可キハ、社會生活ノ決定的勢力トシテノ經濟ハ經濟全體ヲ意味スルモノデナク、只其ノ物質的因素ダケヲ意味スルモノナルコトデアアル。

此ノ點ハ甚ダ重要ナルモノニシテ、唯物史觀說ノ眞義ハ此ノ點ヲ明ラカニ辨別スルコトニヨリテ始メテ正當ニ理解サレルノデアアル。夫レ總テノ他ノ社會的行動ヨリ經濟ヲ區別スル一定ノ特質ガアル。夫レハ經濟ハ他ノ總テノ社會的行動ノ如ク只人ト人トノ相互關係ノミカラ成立スルモノデナク、又人ト物質的自然トノ關係ヲモ含ムト云フコトデアアル。即チ經濟ハ一方ニ於テハ人ト人トノ相互關係ヲ意味スルト同時ニ、他方ニ於テハ人ト物質的自然トノ關係ヲ意味スルモノデアアル。而シテ其ノ人ト人トノ相互關係ノ方面ニ於テハ經濟ハ他ノ社會的行動ト同ジク他ノ社會的行動ト相互的關係ヲ有シ、相互ニ他ヲ決定シ、又他ニ決定サレテ絶ヘズ變動シ行クモノデアアルガ、併シ人ト物質的自然トノ關係ノ方面ニ於テハ、此ノ變動過程ノ外ニ立チ、之レヨリ獨立シテ居ル。此ノ方面ニ於テハ經濟ハ他ノ社會的行動ニヨリテ制約サレズシテ、外界自然ノ性質ニヨリテ制約サレル客觀的存在ヲ有スルモノデアアル。而シテ外界自然ガ比較的ニ不變的ナル性質ヲ有スルコトニヨリテ、經濟ハ他ノ社會的行動トハ異ナレル比較的ニ不變的ナ客觀的ナ性質ヲ具ヘ、夫レガ爲メニ又夫レ自身比較的ニ獨立ナル存在ヲ有シテ、絶ヘズ他ノ總テノ社會的行動ノ上ニ決定的ナル作用ヲ及ボスノデアアル。併シ此ノ方面カラ見ルモ、經濟ガ社會生活ノ全體ニ於テ甚ダ優勢ナル地位ヲ占メ、他ノ社會的行動ノ上ニ決定的ナル影響ヲ及ボスノハ、矢張り歴史の發達ノ始メノ階段ニ於テデアアル、而シテ歴史ノ進歩スルニツレテ其ノ勢力ハ段々減弱スノデアアル。

以上述べ來リシ處ニヨリテ知ラルル如ク、吾人ガ唯物史觀說ノ主意ヲ一定ノ程度ニ於テ正當ト

認メザルヲ得ザルニケル重要ナル事實ガアル。一ハ他ノ總テノ社會的行動ノ物質的基礎ヲ作ル爲メニ經濟的勞働ノ必要缺クベカラザルコト、二ハ社會的行動ノ全體ニ於テ經濟的勞働ノ分量のニ優勢ナルコト、三ハ經濟的過程ニ於テハ社會的發達ヨリ獨立シ、之ヲ決定スル永續的不變のナル物質的要素ノ存在スルコトデアアル。併シ夫レト同時ニ其等三種ノ事實ノ何レノ方面ニ於テモ、社會生活ニ於ケル經濟ノ決定の意義ハ歴史ノ發達スルニ從フテ必然のニ段々減弱シテ居ルノデアアル。始メニハ社會生活ハ全ク經濟ニヨリテ支配サレテ居ル。併シ歴史ノ發達スルニツレテ經濟ハ益々他ノ社會的行動ニヨリテ決定セラレ、殊ニ經濟ヨリ段々解放サレル科學ニヨリ、テ決定セラレ、經濟ハ益々社會的相互關係ノ圈内ハ引キ込マレル。此クテ經濟ハ社會進化ノ原因ヨリ段々其ノ結果ニ轉化スルノデアアル。而シテ此ノ理ヲヨク理解スルコトニヨリテ、吾人ハ又唯物史觀說ト社會主義トノ關係ヲ正當ニ理解スルコトガ出來ルノデアアル。要スルニ社會進化ハ受動的、自然的、發生的ヨリ漸次ニ能動的、人爲的、目的論的ニ化成スルノデアアル。而シテ夫レガ爲メニ吾人ハ必然ノ世界ヨリ自由ノ世界ニ進ミ、客觀的經濟條件ニヨリテ制約サレテ居ル資本主義ヨリ、其等ノ條件カラ解放サレタル自由ナル社會主義ニ進ムコトガ出來ルノデアアル。尙ホ此ノ進歩ハ飛躍的革命的ニ成就サレルモノノ如ク考フルハ、まゝるくす主義者ノ一般ニ抱イテ居ル謬見ニシテ、此ノ進歩ハ只漸次ニ連續的ニノミ實現サレ得ルモノデアアルノデアアル。

つーが、ばらのぐすきーハ更ニ進ンデ階級闘争說ヲ批判的ニ考察シ、又此ノ問題ニ關スル彼ノ自說ヲ述ベテ居ル。茲ニ其ノ大要ヲ述ベテ彼ノまゝるくす說ノ批判的修正ノ主意ヲ一層明ラカ

ニシテ置カウト思フ。

今まゝるくす主義者ハ全世界ノ歴史ハ經濟的利益ノ爲メニ行ハレタル階級闘争ノ歴史デアルト
觀念シテ居ル。彼等ノ考フル處ニヨレバ「權力ハ只手段ニ過ギズシテ、之レニ反シテ經濟的利益
ハ目的デアル」。併シ先ヅ權力即チ政治的勢力ト經濟的利益即チ富トヲ同等ノモノトシテ相對立セ
シメテ考ヘルハ謬見デアル。勢力ハ夫レ自身目的デアリ得ル、又屢々目的トナルノデアル。併シ
富ハ常ニ何か他ノ物ノ手段デアル。夫レ自身獨立ナル目的トシテ勢力ヲ求ムル努力ニ對立セシム
可キモノハ、經濟的利益其物ニハ非ラズシテ、經濟的利益ガ役立ツ處ノモノ、例ヘハ生活ノ維持
トカ、感覺的快樂トカ云フガ如キモノデアル。而シテまゝるくす主義者ノ主意ハツマリ自己保存
慾ヲ以テ階級闘争ノ唯一ノ動機又ハ最重要ノ動機ト見ルコトニアルト思フガ、是レハ謬見デア
ル。社會闘争ハ總テ只又ハ主トシテ經濟的利益ノミヨリ生起スルモノデナク、社會的勢力ヲ得ン
ガ爲メニモ、亦名譽ヲ得ンガ爲メニモ、更ニ其他種々ナル原因ヤ目的ニヨリテ生起スルモノデア
ル。尙ホ歴史ヲ社會團體ノ闘争ノ舞臺トシテ考察スルニ於テハ、吾人ハ國家内ニ行ハルル階級闘
争ト、國家ト國家即チ諸階級ヲ政治的ニ結合セル團體ト團體トノ間ニ行ハルル闘争トノ二種ノ別
ヲ立テ子バナラス。只階級闘争ノミシカ存在シナイモノト見ルハ完全ナル見解デハナイ。而シテ
此等二種ノ闘争ハ何レモ大ナリ小ナリ社會的勢力ノ爲メノ闘争デアル。併シ第一種ノ闘争ニ於テ
ハ屢々富ハ手段トシテ求メラレ、先ヅ富ヲ得ルコトガ其ノ直接目的トナル。之ニ反シテ第二種ノ
闘争ニ於テハ只稀レニ富ガ直接目的トナルダケデアツテ、而シテ敵ヲ政治的ニ克服スルコト及ビ

政治的支配力ヲ確立スルコトガ、一般ニ其ノ直接目的トナツテ居ルノデアル。

更ニ精神的行動ノ高等ナル種類ノモノ、即チ科學、哲學、藝術、道德、宗教等ニ關シテハ、階級的の利益説ハ一層價值少ナキモノトナル。先ヅ科學及ビ哲學ニ就テ考究スルニ、彼等ハ階級的の利益ニ支配サレナイ彼等特有ノ法則ヲ具有スルコトハ明ラカニ認メラレル。又若シ然ラザレバ彼等ハ到底存立シ得ナイモノデアルコトガ明フカニ理解サレルノデアル。次ニ道德ニ就テ考究スルニ、ナルホド各社會階級ハ他ノ階級ノ經濟的の利益ト或程度マデハ矛盾スル自己特有ノ經濟的の利益ヲ有ツテ居ル。併シ倫理的の意識ハ階級的の利益ノ意識トハ全ク異ナレル或物デアル。道德的正邪ノ本質ハ、一定ノ行爲ガ他ノ何等カノ目的ノ手段トシテデハナク、夫レ自身ニ於テ善又ハ惡トシテ認メラレルト云フ事ニ在ル。此クテ夫レ自身ニ於テ妥當ナル又遵奉セラル可キ或物トシテノ倫理的の當爲ノ概念、義務ノ概念ガ起ルノデアル。サレバ義務ノ形式の原理ハ一切ノ階級的の差別ヨリモ高キモノニシテ、此ノ原理ノ承認ニ於テハ、階級ヤ職業ノ差別ニ關セズ、倫理的の意識ヲ有スル總テノ人々ハ一致スルノデアル。階級利益説ハ思惟法則ノ普遍妥當性ヲ説明スルコトガ出來ナイ如ク、義務意識ノ基本的ナル倫理的事實ヲモ矢張り説明スルコトガ出來ナイノデアル。而シテ階級利益説ヲ徹底シテ行ケバ、根本的ニ客觀的科學ノ成立ヲ否定セチバナラヌ如ク、又道德ヲモ否定セチバナラナクナルノデアル。終リニ宗教ニ就テ考ヘルモ、亦藝術ニ就テ考ヘルモ、階級利益説ニヨリテ之ヲ根本的ニ説明スルコトノ不可能ナルヲ見ルノデアル。宗教ノ本質モ、亦藝術ノ本質モ、何レモ階級的の利益以上ノ或物ヨリ成立スルノデアル。要スルニ階級的の利益ハ眞ノ標準デモ、善ノ

標準デモ、亦美ノ標準デモナイカラ、階級利益説ハ到底學問、道德、宗教、藝術等ノ本質ヲ説明スルコトハ出來ナイノデアル。

却説是レマデ述べ來リシ處ヲ總括シテ考ヘルト、先ヅ物質的ナル經濟的要素ヲ以テ人類歴史ノ決定的勢力ト見ル唯物史觀説ノ第一ノ見解ハ一部分ニ於テ正當デアル。併シ全體ニ於テ正當デアルト見ルハ謬見デアル。物質的經濟條件ノ決定的勢力ハ歴史ノ發達スルニツレテ減弱スルノデア。而シテ唯物史觀説ノ第二ノ見解、即チ經濟的利益ハ社會生活ニ於ケル支配的勢力ニシテ、生活手段ノ爲メニ行ハルル社會團體ノ鬭爭ハ、歴史ノ最トモ重大ナル内容ヲナスモノデアルト見ル階級鬭爭説ハ右ノ第一ノ見解ノ論理的結論デナイコトハ明ラカデアル。物質的經濟條件ノ支配ハ必ズシモ意識ニ於テハ經濟的利益心ノ支配トナラネバナラヌトハ云ハレナイ。人間ハ無意識的ニモ亦物質的經濟因素ノ影響ヲ受ケ得ル、否ナ受ケテ居ルノデアル。サレバ唯物史觀説ノ第一ノ見解ヲ一部分承認シタレバトテ、第二ノ見解ヲモ亦承認セネバナラヌコトハナイ。要スルニ階級鬭爭ハ確カニ歷史上無視ス可キモノデナイ、殊ニ近來其ノ社會的重要ハ大ニ増加シテ居ル。而モ早代ニ於ケルト同ジク近代ニ於テモ、人類ノ歴史ハ全然階級鬭爭ノ歴史ト合致スルモノデナイ、之ヲ此ノ如ク見ントシタルハまゝ一るくすヤえんげるすノ大謬見デアル。

最後ニ資本主義的經濟組織ノ瓦壞ニ關スルツーがん、ばらの今すきーノ説ヲ考究シテ見ヤウト思フ。

今唯物史觀説ニヨレバ社會的革命ヲ起スモノハ人間ノ意識デハナクシテ物質的生活ノ矛盾、即

チ社會的生産力ト生産關係トノ間ニ起ル衝突デアアル。而シテ資本主義的經濟組織ノ瓦壞ノ必然性ト、其ノ社會主義的經濟組織ヘノ轉化ノ不可避免性ヲ明ラカニスル爲メニハ、先ヅ第一ニ一定ノ階段ニ進ミタル以上ハ資本主義ノ存續ガ到底經濟的ニ不可能ナルヲ證明スルコトガ必要デアアル。資本主義ノ存續ノ純經濟的ニ不可能、是レまゝるくす及ビえんげすノ最トモ力ヲ盡クシテ考究セル問題ノ一デアアル。而シテ彼等ガ此ノ問題ニ就テ論述セル事ヲ總括シテ、其ノ中ニ合マルル理論的中核ト思ハルルモノヲ抽キ出シテ見ルト、夫レハ二種ノ學說ニ總合サレルト思フ。一ハ資本主義的生産販路缺乏說 *Theorie des mangelnden Absatzes für die kapitalistische Produktion* ト稱スキモノニシテ、二ハ利潤低減說 *Theorie der fallenden Profitrate* ト稱スキモノデアアル。

資本主義的生産販路缺乏說ノ主意ハ之ヲ簡單ニ説述スルト左ノ如キモノデアアル。今資本主義的生産ニ對スル市場ノ範圍ハ社會的消費ノ範圍ニヨリテ決定サレル。然ルニ生産物ノ分量ハ社會的消費ヨリモ一層速カニ増加スルカラ、其ノ一部分ハ賣却サレズニ残り、又資本ノ一部分ハ利用サレズニ止マル。即チ生産過多ノ状態ガ起リ、資本ノ運轉ハ休止スル。而シテ資本主義的生産ノ發達ハ此ノ生産過多ノ状態ヲ益々永ク繼續セシメザルヲ得ナイ。是レ此ノ發達ニ於テ社會的消費ハ只寛徐ニ膨脹スルニ止マルガ、生産ハ益々迅速ニ増加シテ行クカラデアアル。サレバ生産過多ガ慢性的トナリ、而シテ資本主義的經濟組織ガ、常ニ新ニ愈々集積スル資本ヲ夫レニ應ジテ益々利用シ行クコトノ不可能ニヨリテ、遂ニ瓦壞サレル時機ハ、早晚來ラザルヲ得ナイノデアアル。

右ノ資本主義的生産販路缺乏說ハ舊派ノまゝるくす主義者モ亦修正派ノまゝるくす主義モ一般

ニ承認シテ居ル學說ニシテ、又ぶゝるじゆあ經濟學者ノ中ニモ右ノ傾向ヲ承認スル人々ハ少ナク
ナイ。要スルニ社會的生產ト消費トノ必然的合致ト云フコトハ、今ヤ經濟學上一般ニ承認サレテ
居ル一原理デアルト思フ。而シテ資本主義ハ遂ニ社會的消費ノ制限ヲ誘致スルモノナルヤ否ヤニ
就テハ、異論ハアルガ、併シ若シ然リトスレバ社會的生產ハ生産過多ヲ惹起スルコトナクシテ増
大スルヲ得ナイト云フコトハ一般ニ認メラレテ居ルト思ハレル。サレバ今ガカル學說ガ根本的ニ
謬ツテ居ルコトヲ論證セントスルハ、隨分大膽ナ企ダテアルカモ知レナイガ、真理ノ爲メニ余
輩ハ敢テ之ヲ試ミントスルノデアアル。

夫レ經濟ハ歴史の範疇ニシテ論理的範疇デナイ、故ニ經濟ハ其ノ歴史の諸形態ノ總テニ於テ常
ニ同一デアルト見ルハ謬見デアアル。經濟ニハ幾多ノ種類ガアル。併シ茲ニ吾人ノ問題ノ上カラ考
ヘルト吾人ハ經濟組織ヲ根本的ニ二種ノ類型ニ分タネバナラス。其ノ一ハ調和的經濟ト稱ス可キ
モノニシテ、即チ直接生産者ガ生産手段ヲ左右シ、生産ノ方針(生産サル可キ貨物ノ種類)ヲ決定
スルコトヲ其ノ本質トナスモノデアアル。而シテ此ノ經濟組織ニ於テハ經濟ニ參與スル人々ノ利害
ノ衝突ハ必ズシモ含蓄サレテ居ラナイ。是レ吾人ハ之ヲ調和的經濟ト云ハントスル所以デアアル。
其ノ二ハ反對的經濟ト稱ス可キモノニシテ、其ノ決定的特質ハ此ノ經濟組織ニ於テハ經濟主體ノ
人格ト經濟的勞働者ノ人格トハ一致シナイト云フコトデアアル。經濟的勞働者ハ他人ノ經濟ニ從屬
シ、而シテ其ノ經濟ノ主體ハ自カラ經濟的勞働ニ參加シナイ人格デアアル。ツマリ生産手段ハ勞働
者ノ所有ニ屬セズシテ、生産ヲ指揮シ、其ノ方針ヲ決定スル經濟主體ノ所有ニ屬スル處ノ經濟組

織デアル。而シテ今日ノ資本主義的經濟組織ハ反對的經濟類型ニ屬スルモノニシテ、社會主義的經濟組織ハ調和的經濟類型ニ屬スルモノデアル。

今調和的經濟ニ於テハ經濟的行動ハ社會ノ慾望ヲ充足スルト云フヨリ以外ノ目的ニ役立テ得ナイコトハ明カデアル。併シ反對的經濟ニ於テハ大ニ異ナツテ居ル。此處ニハ經濟的過程ニ於テ其ノ經濟的役目ノ甚ダ異ナレル少クモ二ケノ人格ガ參加シテ居ル。而シテ經濟主體即チ奴隸經濟ニ於ケル奴隸ノ所有者、封建的經濟ニ於ケル領主、資本主義經濟ニ於ケル資本家等ハ、調和的經濟ニ於ケル各經濟主體ト同一ノ地位ヲ占メルガ、勞動者ハ單ニ生産手段トシテ生産ニ與カリ、其ノ役目ハ主體ノ夫レトハ全ク異ナツテ居ル。ツマリ勞動者ハ經濟ノ主體デハナクシテ、役畜ヤ道具器械ヤ原料品ト同ジク經濟ノ客體デアルノデアル。

却説經濟類型ニ就テ右ノ二種ノ別アルヲヨク會得シテ置テ、而シテ資本主義的經濟組織ハ反對的經濟ニ屬スルモノトシテ之ヲ考察スルニ於テハ、吾人ハ此ノ經濟ノ發達ニ於ケル社會的生產ト消費トノ關係ニ就テ、まゝるくす主義者ノ見解ノ穩當ナラザルコトヲ明ラカニ理解スルコトガ出來ルト思フ。即チ資本主義ガ益々發達スルニツレテ、社會的生產ハ社會的消費ヨリモ遙カニ迅速ニ増加シ、而シテ夫レガ爲メニ生産過多ガ慢性的トナリテ、遂ニ資本主義組織ガ必然的ニ瓦解ス可キモノデナク、社會的生產ガ社會的消費ヨリモ迅速ニ増加スルニ拘ラズ、生産過多ノ現象ハ必ズシモ起ラズ、隨フテ資本主義ハ必ズシモ破壊サレズシテ存續シ得ルモノナルコトガ明ラカニ理解サレルト思フ。全體まゝるくす主義者ガ右ノ如キ見解ヲ抱イテ居ルノハ、是レ上ニ述ベシ

經濟類型ノ二種ノ別ヲヨク辨ヘナイガ爲メデアアルノデ、彼等ハ何レノ類型ニ屬スル經濟ニ於テモ生産スルト云フハ即チ人類ノ使用ノ爲メニ消費手段ヲ作成スルコトデアアルト解シテ居ル。然ルニカカル意味ニテ云フ生産ハ調和的經濟ニ於テハ生産ノ全體ニ適用セラルルガ、併シ反對的經濟殊ニ資本主義的經濟ニ於テハソウデナイ。此ノ類型ニ屬スル經濟殊ニ資本主義的經濟ニ於テハ生産トハ只消費手段ノ生産ダケヲ意味スルモノデナク、又生産手段ノ生産ヲモ意味スルノデアアル。サレバ資本主義ノ益々發達スルニツレテ、社會的消費ガ相對的ニ減少スルモ、生産手段ニ對スル需要ガ増加シ行クトキハ、生産過多ノ現象ハ起ラナイノデアアル。而シテ今資本主義發達ノ實際ノ形勢ヲ考察スルニ、消費手段ノ生産ガ相對的ニ減少スルニ反シテ、生産手段ノ生産ガ益々増加シテ居ル。資本主義的發達ノ最近ノ形勢ハ、鑛山業、化學工業、器械工業等、其ノ生産物ガ直接ニ人間の消費ニ充用サレナイ種類ノ工業ガ非常ニ迅速ニ膨脹スルニ反シテ、農業、織緯業等、其ノ生産物ガ直接ニ人間の消費ニ充用サレル種類ノ生産業ガ停滞シテ居ルト云フコトデアアル。サキニハ綿花工業ガ資本主義世界ノ主要工業デアツタガ、今ハ鐵工業ガ其ノ主要工業トナツテ居ル。此ノ如ク資本主義ノ發達ハ消費手段ノ生産ノ相對的減少ト生産手段ノ生産ノ相對的增加トヲ意味スルモノナレバ、社會的消費ヨリモ迅速ニ社會的生産ガ増加スルト云フコトハ、必ズシモ生産過多ヲ起スモノトハ云ハレナイ。社會的生産ノ比例的配分ニ於テ、社會的消費ノ減退スルコトハ夫レ自身ニ於テ何等生産過多ヲ起ス性質ヲ有スルモノデナイ。吾人ハ社會的生産ノ全體ニ於テ社會的消費ノ割合ガ無制限ニ減少シ行クトガ、資本主義的發達ノ一原則デアルト思フ。而モ夫ハまゝなる

くすノ考ヘシ如ク資本主義の經濟組織ノ存在ニ對シテ何等危險ナル因素ヲ含ムモノデナイ。詳シク云ヘバ消費手段ノ需要ノ相對的減退ハ資本ノ運用或ハ利用ノ過程ヲ攪亂スルモノデナク、隨フテ又決シテ資本主義の經濟組織ノ瓦壞并ニ其ノ社會主義の經濟組織ヘノ轉移ヲ強制スルコトハ出來ナイノデアル。

まゐるくすハぶゝるじゆあ經濟學者ハ資本主義經濟ヲ以テ唯一ノ經濟ト考ヘテ居ルト常ニ非難シテ居ツタ。然ルニ實際ニ於テ彼レ自身モ矢張り同一ノ謬見ヲ抱イテ居ツタノデアル。即チ總テノ經濟ハ人間ノ慾望ヲ充足スルヨリ以外ノ目的ニ役立ツコトハ出來ナイモノト考ヘテ居ツタ。併シ資本主義經濟ハ或程度マデハ此ノ目的ニ背クモノデアル。此クテ彼ハ資本主義の經濟組織ハ其ノ内部ニ於テ除去サレ難キ一定ノ經濟的矛盾ヲ含ミ而シテ一定ノ發達階段ニ達スレバ其ノ存續ハ不可能トナルト考ヘタノデアル。併シまゝるくすノ云フ此ノ經濟的矛盾ナルモノハ、反對的經濟ノ一種トシテノ資本主義的經濟ノ真相ヲヨク理解スルトキハ決シテ矛盾デハナイノデアル。只彼ハ此ノ理ヲ覺ラズ、反對的經濟ノ一種タル資本主義經濟ニ調和的經濟ノ目的ヲ適用シテ考ヘタガ爲メニ之ヲ矛盾ト見ル誤解ニ陷ツタノデアル。然ルニ今資本主義經濟ノ反對的性質ヲ其ノ全體ニ於テヨク理解スルトキハ、まゝるくすノ發見シタト考ヘタ矛盾ナルモノハ、眞實ノ矛盾デナイコトガ直チニ了解サレルノデアル。蓋シ資本主義的生產ハ人間の消費ノ増加ヲ目的トスルモノデナク、資本ノ増加ヲ目的トスルモノデアルカラ、(隨フテ人間の消費ノ相對的減少ハ其ノ發達ニ自カラ伴ナフモノデアルカラ)社會的生產ノ増加スルニ反シテ社會的消費ノ減少スルト云フコトハ決シテ

其ノ内部的矛盾デハナク、否ナ其ノ發達ニ伴ナフ自然ノ傾向デアリ、隨フテ又夫レガ爲メニ其ノ生産ノ利用ニ於テ何等ノ困難ニモ遭遇シナイ筈ノモノデアアル。

次ニまゐるくす主義者ガ資本主義的經濟組織ノ必然的瓦壞ノ他ノ原因ト見タル利潤ノ低下、即チ利潤低下説ヲ批判的ニ考察シテ見ルニ、まゐるくすノ考フル處ニヨレバ、資本主義的企業ニ携ハル勞動者ノ數ハ増加セズ、而シテ資本家ガ勞動者ヲ絞取スル程度ヲ高メルコトガ出來ナイ場合ニハ、資本ハ増加シテモ利潤ヲ増大スルコトハ出來ナイ。カカル條件ノ下ニ於テハ生産上新シキ資本ハ利用ノ餘地ヲ見出スコトガ出來ナイ。而モ資本ノ集積ハ停止スルコトガ出來ナイカラ、社會的利潤高ヲ増加スルコトノ出來ナイノニ拘ラズ、常ニ新シキ資本ヲ生産ニ投下セネバナラヌ。而シテ此ノ事ハ自カラ既ニ生産ニ投下サレテ居ル資本ノ活用ヲ増シ、資本ノ絶對的過多ヲ誘致スル。此クノ如クニシテ利潤ノ低下ハ遂ニ資本主義ノ瓦壞ヲ招致スルニ至ルノデアアル。

併シまゐるくすノ右ノ説モ、之ヲ詳シク批判的ニ吟味スルト甚ダ穩當デナイコトガ發見サレル。(ツー)が、ばらのびすき一ハ餘剩價值論ノ批評ニ結び付ケテ利潤低下説ノ謬妄ナルコトヲ詳細ニ論述シテ居ルガ、之ヲ簡單ニ説述スルコトハ困難ニシテ、而モ茲ニ詳シク述ブル餘白ガナイカラ遺憾ナガラ省略シテ置ク。之ヲ學バントスル人ハ Theoretische Grundlagen des Marxismus. VII. Kapitel. ヲ閱讀セラレヨ。要スルニまゐるくす主義ノ資本主義瓦壞説ハ其ノ全體ニ於テ放棄サレル可キモノデアアル。資本主義經濟ハ其ノ發達ガ一定ノ階段ニ達シタル上ハ、其ノ存續ヲ必然的ニ不可能ナラシムルト云フガ如キ何等ノ原因ヲモ其ノ内部ニ含ンデ居ルノデハナイ。サレバカカル

原因ヲ認メテ現代資本主義ノ近キ將來ニ於ケル瓦壞ヲ豫想シタルえんげるすノ説モ亦かうつきノ説モ皆ナ失敗シテ、而シテ資本主義ハ益々發達シツツアルノデアル。

然ラハ資本主義ハ無限ニ存續シ今後益々發達シ行クモノデアルカト云フニ、決シテソウデナイト思フ。まゝるくす主義者ノ考フルガ如キ經濟の矛盾ガ資本主義ノ内部ニ含マレテ居ラナイコトハ上ニ述ベシガ如クデアル。併シ結局資本主義ヲシテ必然のニ破滅セシム可キ他ノ矛盾ガ其ノ内部ニ含マレテ居ルト思フ。而シテ其ノ矛盾ト云フハ、資本主義ハ一方ニ於テハ勞働スル人間ヲ單ニ經濟の一手段ニ化シテ仕舞フテ居ルト同時ニ、他方ニ於テハ總テノ人格的實在物(人間)ニ於テ夫レ自身ヲ最高目的ト見ル倫理的思想ヲ普及セシメテ居ルト云フコトデアル。此クテ資本主義ノ基本的ナル經濟の原理ト基本的ナル倫理の規範トノ間ニ矛盾ガ生ジテ居ル。但シ其ノ倫理の規範ハかんどニヨリテ最トモ嚴正ニ説述サレテ居ルンデ、彼ノ言ハ下ノ如クデアル。「人間并ニ一般ニ各理性的實在物ハ夫レ自身目的トシテ存在シ、單ニコノ又ハカノ意志ノ任意の使用ノ爲メノ手段トシテ存在スルモノデナイ、併シ彼レ自身ノ上ニ又他ノ理性的實在物ノ上ニ向クラレタル彼ノ總テノ行爲ニ於テ、常ニ目的トシテ考ヘラレネバナラヌ。」然ルニ之レマデ述ベ來リシ處ニヨリテ明ラカナル如ク、資本主義ハ其ノ最トモ内面的ナル本質ニ於テ此ノ最高ノ倫理の規範ト衝突スルモノデアル。而シテ今ヤ經濟的發達ハ益々廣ク文明國ノ人々ノ間ニ此ノ矛盾ヲ意識セシメ、且ツ之ヲ除キ去ル手段ヲ發達サセテ來タ。新シキ社會的理想ハ益々廣大ナル社會的勢力トナリツツアル。昔テまゝるくすノ云ヘル如ク、觀念或ハ理想ハ利害心ト沒交渉デアル以上ハ單ニ世人ノ嘲弄ヲ買フ

ニ止マル。又矢張りまゝるくすノ云ヘル如ク、只社會ノ一般的權利ノ名ニ於テノミ、特殊のナル階級ハ一般の支配力ヲ要求シ得ルモノデアル。要スルニ社會的理想ハ只強大ナル社會團體ノ利益ニ應ズルト同時ニ又一般の倫理意識ノ要求ニ應スル時ニノミ勝利ヲ得ルコトガ出來ル。而シテ又カカル時ニハ必ズ勝利ヲ得ルモノデアル。然ルニ今ヤ社會主義的理想ハ右ノ二ツノ資格ヲ具備シテ居ル。夫レハ一國ノ人口ノ最大多數ヲ占ムル勞働者階級ノ利益ニ應ズルト同時ニ、自然法^{ナチュラレヒト}ノ最トモ基本的ナル要求ニ合致スルモノトシテ考ヘラレテ居ル。近代ノ最大思想家かんとハ「天賦ノ權利ト云ヘハ只一ツアルノミデアル。而シテ自由ハ一般の法則ニ從フテ各々ノ他ノ自由ト共存シ得ル以上ハ、此ノ唯一ノ、原本のナル、其ノ人間タルノ故ヲ以テ各人ニ屬スル權利デアル。」ト云フテ居ル。然ルニ資本主義ハ此ノ最トモ原本のナル權利ヲ傷害スルモノデアル。故ニ遂ニハヨリ善キ、又一層正義ニ相應シキ社會的秩序ニ地位ヲ讓ラネバナラヌ。併シ人類ハ決シテ盲目的ナ元素のナ經濟的力ノ贈物トシテ社會主義ヲ授與サレル事ハアルマイ。之ヲ受クル爲メニハ人類ハ大ニ奮闘シナケレバナラヌ、ツマリ目的意識的ニ新シキ社會的秩序ヲ造ル可ク努力セテバナラヌ。

以上述べ來リシ處ニヨリテ此日露國ノ新まゝるくす主義者中最トモ學者のナル人物デアルト云ハルルツীগアン、ばらのグすきーノ思想ヲ大體上明ラカニシタト信ズルガ、夫レニヨリテ見レバ彼ハ自カラ唯物主義的客觀主義者デアルト云フテ居ルニ拘ラズ、實際ドレホドマデソウデアアルカハ疑ハシイ。而シテ彼ガ屢々かんとノ言葉ヲ引用シテ居ルコトニヨリテモ察セラレル如ク、彼ハ多クノ修正派ノ思想家ト同シク新かんと派ノ思想、又ハ直接かんとノ思想ノ影響ヲ受ケテ、根本

的ニまゝに留るくす説ヲ改造セントシテ居ルノデ、只微カニまゝに留るくす思想ノ面影ヲ保存スルニ過ギ
ナイト思ハレル。隨ノテ彼ノ思想ハ客觀主義ヲ標榜スルまゝに留るくす主義者ノ思想ヨリハ寧ロ主觀
主義者ノ思想ニ一致スル處多イノデアル。昨年ノ大革命ニ際シテ彼ハ如何ナル勦キヲナセシカ、
又其ノ後何ヲナシツツアルカ、余ハ一向聞ク處ナキカ、要スルニ彼ハ本來學者的ナ人物デアアルカ
ラ、實際的運動ニハアマリ關係シテ居ルマイト察セラレル。又過激派ノ連中トハ勿論事ヲ共ニシ
テ居ルマイト思フ。尙ホサキニ「露國まゝに留るくす主義ノ父」ト呼バルルぶれはのぞノ思想ヲ論述
シテ後、外國雜誌ノ報ズル處ニヨリテ、彼ハ目下過激派政府ノ爲メニ獄中ニ投ゼラレテ居ルコト
ヲ學ンダガ、つーがん、ばらのぞすきーモ同ジ運命ノ陥ツテ居ルノデハアルマイカ。(余ハ本論文
本回分原稿ヲ編輯者ノ手元へ送リテ後十數口目ニぶれはのぞハ芬蘭ニ於テ死去シタコトヲ外電ガ
報ジテ來タカラ校正ノ際茲ニ附記シテ置ク。)

附記—本論文ハ豫定ノ計畫ヨリ非常ニ長クナリ、尙ホ十數回ヲ重テザレバ之ヲ完結スルコトガ出來ナイガ、ソレデハ編輯者モ

讀者モ迷惑カト思ヒ、本回分ニ於テ露國革命運動ノ發達ノ根柢ヲ流ル、社會思想ノ諸方面ヲ大體上考究シ終リタルヲ機

會トシテ、一先ツ打切り、殘部ハ近ク公ニセントスル拙者「露西亞革命の研究」中ニ掲載スルコトトシタカラ讀者之ヲ諒

セラレヨ。